

令和5年度 第3回教頭研修会

令和5年10月19日

教頭研修会第3回目は、教頭先生と各校の指導教諭と主幹教諭が合同で研修を行いました。第3回目のテーマは「コミュニケーションスキル」でした。教頭、主幹教諭、指導教諭はそれぞれ、学校で職員を指導する立場にあります。普段、各校で意識していることを基に活発に意見が交わされていました。

<第3回研修会でのキーワード>

- ① 傾聴姿勢
- ② 「良質」な問い

講師 SWITCHWORKS
西崎 真由美 氏

第1・2回目の研修に引き続き、講師としてご登壇いただきました。



① 傾聴姿勢（傾聴と共感）

- ・ 発表の内容について、批判や否定をしない
- ・ 個人ワークの際に書けていないことを否定しない
- ・ 書いている内容を否定しない

校内で研修等を行う時には上記のようなことが必要だということです。

「そういう視点もありますね。」「そのように考えられているんですね。」「皆さんの意見を聞いて思い浮かんだことがあれば、忘れないように書いてくださいね。」など、参加者の思考や気持ちに寄り添う態度を大切にして言葉かけを行うことで、誰もが安心して研修に参加できるようになります。

② 「良質」な問い

研修会参加者の思考を活性化させ、充実した話し合いを行うためには「問い」が重要です。

例えば「なぜコンプライアンスを守らないといけないと思いますか。」という問いと「コンプライアンスを守ることで、どのような効果があると思いますか。」という問いでは、問いの目的は同じであっても、印象がまるで異なってきます。

後者の方が肯定的な問いであり、「コンプライアンスを守ることで、どんなよい事があるか。」

というニュアンスがあります。したがって、参加者からは前向きな意見が聞かれると思います。

このように、研修講師の「問い」の質により、参加者から引き出す言葉も変わってくるということです。知識を一方的に教えるのではなく、気づきや自分で考える力を引き出す働きかけを大切にしたいです。

教頭先生は校内においてコンプライアンス研修等、様々な研修会を運営しています。その研修はどれも学校の教員にとって必要なものであり、教員が研修を積むことで、さらに良い教育を子どもたちに行うことができると考えています。

今年度は、教頭研修として3回連続で「研修講師としてのスキル」を学んでいただきました。今回の連続講座の内容を自分のもとし、各校の研修に前向きに生かされることを期待しています。

そして、教頭先生が行う教員研修を通して教員の学びが深まり、赤磐の子ども達の笑顔につながることを願っています。